

N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅

2017年2月4日(土)～6月11日(日) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

現代アートで巡る、南インドから宇宙まで

森美術館は、2017年2月4日(土)から6月11日(日)まで、インド人アーティスト、N・S・ハルシャの初の大規模個展となる「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」を開催します。

N・S・ハルシャは1969年、南インドの古都マイソールに生まれ、現在も同地を拠点に活動しています。南インドの伝統文化や自然環境と真摯に向き合うN・S・ハルシャの独自の創作姿勢は、インド現代美術界が経済成長とともに国際的注目を浴びるなか高く評価され、これまで数多くの国際展に参加してきました。絵画を中心に多彩な表現技法を駆使した作品に通底するのは、ひとの身体に象徴される小宇宙と森羅万象を包む大宇宙を同時に捉える世界観、そしてこの世の不条理へと向けられた観察者の視点です。

本展では、1995年以降の主要作品約75点(新作を含む)を通し、アーティストの20年間にわたる実践を見つめます。タイトルにある「旅(ジャーニー)」は、アーティストの人生の歩みだけでなく、マイソールから見たインドの経済発展、伝統と現代の往来、日常の営みから宇宙的視点への拡がりなど、多様な「旅」を示唆します。世相や状況を批評的かつユーモラスに描くことにより、N・S・ハルシャはこの世の皮肉も愛も逆説もすべて含んだ魅力を「チャーミングな旅」として伝えてくれるのです。

マイソールというローカルな地点に根差したN・S・ハルシャの視点は、これまで主流だった欧米的な近現代美術の解釈や枠組みからアートを解放し、時空間を超え、より普遍的なものへと導いてくれるでしょう。

【左】《ここに演説をしに来て》【右下】同左(部分)
2008年
アクリル、キャンバス
182.9×182.9 cm(×6)



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

◆ 企画のポイント

豊饒な南インド文化を受け継ぎ、高い国際的評価を誇る現代美術家 N・S・ハルシャの大規模個展

森美術館はこれまで、中国、アフリカ、インド、中東など成長目覚ましい世界各地の現代アートの現状を紹介する地域展と、アジアの中堅アーティストの大型個展を両輪として開催してきました。N・S・ハルシャは、2008年に開催した地域展「チャロー！インド：インド現代美術の新時代」参加アーティストの一人で、インド現代美術界においては、その多彩な手法、作品背景にある南インドの自然や伝統文化、文脈の多様さから独自の立ち位置を確立しています。本展は、地域展で注目したアーティストを大型個展であらためて深く紹介する、森美術館の一つの方向性を示す企画展であるとともに、N・S・ハルシャにとっては初のミッドキャリア・レトロスペクティブ*となります。

*ミッドキャリア・レトロスペクティブ：アーティストのキャリアの晩年や没後に開催されるイメージが強い「回顧展」に対して、一定のスタイルを確立した中堅アーティストの数十年間の仕事を網羅的に見せる展覧会。

■ ミクロとマクロ、両極的な視点でとらえる世界の構造

作品のなかに繰り返し描かれる人々の暮らしや動植物との関わりからより壮大な宇宙の営みまで、「ミクロ」と「マクロ」の両極かつ俯瞰的な視点で、自らを取り巻く「生」と向き合うN・S・ハルシャの実践を通し、世界の構造を見つめ直します。

■ ローカル視点からみる世界のグローバル化

N・S・ハルシャの作品にみられる、1990年代初頭のインド経済市場開放以降のマイソールの変化を通して、世界各地のグローバル化の実態について考察します。



〈開発〉
2004年
ブロンズ、木、アクリル、キャンバス
24×60×4 cm(上)
25×60×3.5 cm(下)
所蔵：Usha Mirchandani, Mumbai

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

■ 「絵画」という概念の拡張

大型キャンバス、床絵、壁画から、《ネイションズ(国家)》や《残り物》などのインスタレーションまで、N・S・ハルシャは、「絵画」という既存の概念を拡張するような作品を多数制作・発表しています。本展では、南インドの細密画、宗教画をはじめ古典的な表現技法としての絵画の新しい可能性をあらためて探究します。

■ アーティストのディレクションによる コミュニティ・プログラム、ワークショップ

N・S・ハルシャは、台湾やインドなど各地でコミュニティ・プログラムやワークショップを自らディレクションしていますが、その土地の人々や子供たちと行うことで定評を得てきました。アーティストはプログラムの参加者が新たな経験を通して知識を積み重ね、アイデアを生み出していくプロセスに強い関心があり、今回、ここ東京でも子供たちを中心とした新たなワークショップを数回にわたって実施し、参加者とアーティスト間の知の交流を図ります。

■ 資料展示室「リソース・ルーム」の設置

展示室内に「リソース・ルーム」と称した資料展示スペースを設け、N・S・ハルシャの作品のアイデア・スケッチや資料に加え、自身のコレクションからインドの漫画、若冲を含む日本美術の画集などを展示します。あわせて、マイソールの人々の日常生活や風景などを写真や映像で紹介し、N・S・ハルシャの実践の背景にある南インドの文化的、思想的な文脈、また欧米や日本の近現代美術の発展との共鳴などを探ります。



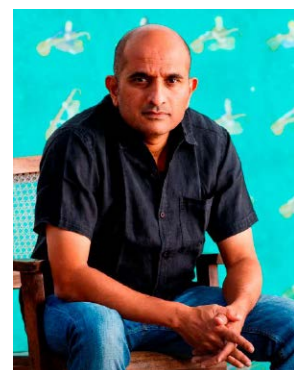
《残り物》 2008年
展示風景：「レフトオーバーズ」銀座メゾンエルメス フォーラム、東京、2008年
© Nacása & Partners Inc.
Courtesy: Fondation d'entreprise Hermès



《大志と夢：カルナータカ州トゥムクールにあるTVS校のためのプロジェクト》
2005年
Courtesy: TVS Academy, Tumkur, India

N・S・ハルシャ

1969年、インド南部、カルナータカ州マイソール生まれ。現在もマイソールを拠点に活動。1995年、進歩的教育で国際的に知られる、ヴァドーダラのマハラジャ・サヤラジオ(MS) 大学絵画修士課程修了。ドイツ学術交流(DAAD) 奨学金(2012年)を受ける。また、アルテス・ムンディ大賞(2008年)などを受賞。コーチ=ムジリス・ビエンナーレ(インド、2014年)、モスクワ現代美術ビエンナーレ(2013年)、堂島リバービエンナーレ(大阪、2013年)、アデレード・フェスティバル(オーストラリア、2012年)、横浜トリエンナーレ(2011年)、サンパウロ・ビエンナーレ(ブラジル、2010年)などを含む多数の国際展に参加、また2009年にロンドンの国際美術研究所(INIVA)、2008年に東京の銀座メゾンエルメス フォーラムにてそれぞれ個展を開催。他、インド現代美術を包括的に紹介した大型国際巡回展「インディアン・ハイウェイ」(2008年、ロンドン、サーペンタイン・ギャラリー。2012年まで世界5都市巡回)、「チャロー！ インディア：インド美術の新時代」(2008年、森美術館。2009年、ソウルとウィーンへ巡回)にも参加。



撮影：Mallikarjun Katakol

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum
〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

◆ 開催概要

展覧会名：「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」

主催：森美術館

企画：片岡真実(森美術館チーフ・キュレーター)

会期：2017年2月4日(土)ー6月11日(日)

会場：森美術館 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階

開館時間：10:00ー22:00 | 火 10:00ー17:00 *いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料：一般1,800円、学生(高校・大学生)1,200円、子供(4歳ー中学生)600円、シニア(65歳以上)1,500円

*表示料に消費税込 *本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)

*スカイデッキへは別途料金がかかります

一般のお問い合わせ：Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

◆ 企画者のメッセージ 片岡真実(本展キュレーター/森美術館チーフ・キュレーター)

N・S・ハルシャは、1969年、南インドの古都マイソールに生まれ、1990年代には進歩的教育で国際的に知られるヴァドーダラの美術大学で学び、現在はマイソールを拠点に活動しています。インドの現代アート・コミュニティが、経済成長とともに国際的な注目を浴びるなか、N・S・ハルシャもこの10年間に各地の「インド現代美術展」を含む数多くの国際展に招待されてきました。その一方で、南インドの伝統文化や自然環境、人間と動植物との関係など自らを取り巻く生(ライフ)と真摯に向き合いながら、独自の立ち位置を確立してきた作家でもあります。

N・S・ハルシャの芸術的実践には、ベールール(Belur)、ハレービドゥ(Halebidu)など、ホイサラ王朝期(11~14世紀)のヒンドゥー寺院にみられる細密彫刻、あるいはマイソール様式のミニチュールなど、地域に深く浸透した具象造形の伝統から、絵巻の伝統や近代コミックなどに継承された神話や物語の文化、女性が毎朝玄関前に描く砂絵「ランゴリ」など、国際的な現代アートの文脈では語りきれない多様な文化が複雑に編み込まれています。絵画を中心に、ドローイング、彫刻、サイト・スペシフィックなインスタレーションやワークショップなど、多様なメディアを駆使していますが、そこに通底しているのは、身体に象徴されるマイクロコスモスと森羅万象を包むマクロコスモスが同時に存在する世界観、そして日々の不条理や両義的な瞬間へ向けられた観察者の視点です。

「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」と題された本展は、彼のこれまでの主要作品が初めて一堂に会するミッドキャリア・レトロスペクティブです。1995年から2016年までの主要作品を網羅しながら、アーティストの実践の展開を見つめます。タイトルにある「旅(ジャーニー)」は作家自身の人生の歩みにとどまらず、マイソールから見たインドの政治・経済的発展、そして、それと並行する現代のあらゆる地域における社会の変化という旅、日常生活に見る人々の変化、伝統と現代を往来する旅、生物科学的世界観から天文学や宇宙的スケールへの旅など、さまざまな「旅」を示唆しています。また、ひとつの作品で時に数千人も描かれる人物からも、それぞれの人生を読み解くことができます。そこでは動物や植物などあらゆる生命体とともに、われわれ人間も壮大な宇宙の塵のひとつとして描かれています。また、謎に満ちた宇宙、予測不可能な未来へ向けられたN・S・ハルシャの好奇心も見とれます。これらの「旅」のプロセスは必ずしもチャーミングなものばかりではありませんが、この世の不条理な出来事や両義的な価値観などに対して、N・S・ハルシャは批評的かつユーモラスな眼差しを注ぎ、それらを「チャーミングな旅」として私たちに伝えてくれるのです。



プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

森美術館では、これまでも中国、アフリカ、インド、中東など成長目覚ましい世界各地の現代アートの現状を、地域展とアジアの中堅作家の個展の両輪で紹介してきました。本展「N・S・ハルシャ展：チャーミングな旅」もこの個展のシリーズのひとつに位置づけられます。インドは複数の州、言語、食文化、宗教によって構成され、それぞれ数千年にわたる複雑な歴史が蓄積されてきた国です。なかでも、作家が拠点とするマイソールは、14世紀からインド独立まで続いた王国であり、文化・芸術分野で豊穡な歴史を有しています。近年、「多元的近代／複数の近代」という概念の研究が進んでいますが、本展では「美術」について、N・S・ハルシャというひとりの作家の視点、マイソールという場所を通してその多面的な文化を紐解くことで、現代アートの解釈や枠組みもまた、欧米が中心となって形成されてきた近現代美術に限定されない、時空間を横断した、より普遍的なものへと解放されていくことを願っています。



《再び生まれ、再び死ぬ》

2013年

展示風景：第5回モスクワ現代美術ビエンナーレ、2013年



《再び生まれ、再び死ぬ》(部分)
2013年
アクリル、キャンバス、ターボリン
365.8×2,407.9 cm

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

◆ 関連情報

足踏みミシンを貸してください！N・S・ハルシャ《ネイションズ(国家)》、制作協力をお願い

《ネイションズ(国家)》は、さまざまな言語や民族、宗教が共存するインドで、「国家」が意味するところを問う作品です。N・S・ハルシャは、町の雑貨屋で売られている子供用の本を参考に、国際連合の加盟国193の国旗を布に描き、同じ台数の足踏みミシンと組み合わせたインスタレーションを制作し、これまでロンドンをはじめ世界各地で展示してきました。インド独立の父と呼ばれるマハトマ・ガンジーは、独立への意識を高めるために国産品(スワデシ)を奨励し、その象徴として手紡ぎ、手織りの生地カディを推奨しました。それに対して、足踏みミシンと国旗が複雑に絡み合ったインスタレーション《ネイションズ(国家)》は、産業化が進んだ今日、政治的にも経済的にも国同士が複雑に関連しあうグローバル化した世界を象徴しているようにも見えます。

このインスタレーションを東京でも実現するため、テーブル付きの足踏みミシンを、展覧会会期中無償で貸して下さる方を募集します。ご家庭で使われていたミシンや、倉庫で保管されているミシンなど、実際に動かないものでも構いません。

ご協力のほどよろしく申し上げます。

応募方法

- ・ 以下、アンケートに必要事項を記載の上、ミシンの写真をお送りください。
- ・ お送りいただいた写真とアンケートをもとに担当からご連絡いたします。
- ・ 展覧会終了後、ミシンは返却いたします。

アンケート

- ① お名前
- ② ご住所
- ③ 日中連絡がとれる電話番号
- ④ メールアドレス
- ⑤ ミシンのサイズ 高さ(床からミシンまで) × 幅 × 奥行き(cm)
- ⑥ 重さ(目安)
- ⑦ 現在壊れている部分や破損の可能性がある部分はありますか？
- ⑧ その他、質問など

注意事項

- ・ ミシンは原則テーブル付きのものを募集します。
- ・ 往復送料は当館が負担いたします。そのため、募集は首都圏内(東京都、千葉県、茨城県、埼玉県、神奈川県、栃木県、群馬県、山梨県)に限定させていただきます。
- ・ 複数台をまとめてお貸しいただける場合は、首都圏外でもぜひご相談ください。
- ・ 個人・法人の別は問いません。
- ・ ご協力いただいた方には、展覧会の招待券(1台につき2枚)を差し上げます。

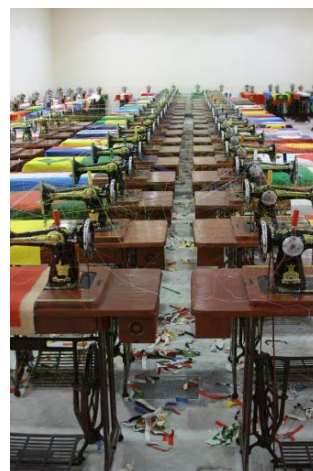
募集期間：2016年11月30日(水)まで(募集数に達し次第終了)

借用期間：2017年1月中旬-2017年8月末(予定)

募集に関するお問い合わせ先

森美術館 学芸グループ 担当：吉田、後藤

Tel: 03-6406-6573(月-金 11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: nations@mori.art.museum



《ネイションズ(国家)》
2007年
展示風景：シャルジャ・ピエンナーレ9、アラブ首長国連邦、2007年

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報：瀧、町野

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum Web: www.mori.art.museum

〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館